

【炭水化物研究部会】

1, 2 月	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
3, 4 月	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
5, 6 月	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
7, 8 月	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
9, 10 月	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。
11, 12 月	GR プロジェクトと、二つの分科会（果糖分科会、ダイエット分科会）を中心に、活動を進める。炭水化物の摂取と健康（肥満、生活習慣病）との関係を、ILSI Japan として明確にすることを目標としている。

\*GR プロジェクト

1, 2 月	1月に開催された ILSI 本部総会で、食総研で GR の研究を進めている熊井英志氏が GR プロジェクトの概要を発表した。発表は、International Carbohydrates Coordinating Committee Meeting (ILSI North America Technical Committee on Carbohydrate 主催) の場と、ILSI Japan Luncheon Meeting (ILSI Japan 主催) の場で行った。2 月度の GR 定例報告会で、上記発表について会員に説明した。
3, 4 月	食総研で行っている研究により、GR 測定法のプロトコルが具体化したため、これをさらに完成型に近づけるための問題点の洗い出しを行った。これをもとに次年度の研究活動計画を作成した。GR プロジェクトの 2006 年度の研究報告書を作成した。
5, 6 月	GR 測定法プロトタイプを改良を進めると同時に、さまざまな食品、食事を測定対象として GR 測定を行い、プロトタイプが食品全般に使えるものかの検討を行う。GR 測定に必要な標準食品・食事の検討を、食総研と昭和女子大で開始した。
7, 8 月	プロトタイプとして確立した GR 測定方法に細部の修正を加える作業を行った。また、グリセミック・インデックスを求めた代表的な食品、食事をを用いて GR 値の測定を開始した。食品、食事の種類が増えたところで、GI 値との比較を行い、どのような一致点、相違点があるかを検討する。
9, 10 月	プロトタイプとして確立した GR 測定方法に細部の修正を加える作業を継続して行った。また、グリセミック・インデックスが報告されている代表的な食品、食事をを用いて

	GR 値の測定を行った。GR 測定の際に基準とする食品の選択とその測定の検討を、昭和女子大学と共同で開始した。
11, 12 月	12 月 17 日に、GR プロジェクトの 3 カ年の活動報告を行う。食品総合研究所、石巻専修大学、参加企業それぞれの関係者が出席し、これまでの研究開発のまとめと今後の課題について議論を重ねた。

### \* 果糖分科会

1, 2 月	2 月 23 日に第 7 回果糖分科会を開催。 ・これまでの活動について確認 これまでの文献調査は一覧にまとめることにした。 ・また今後の進め方についての相談 果糖の総説 ( Nutrition Reviews ) についての検討と、批判の中心である米国の雑誌を中心に検討した。
3, 4 月	3 および 4 月は分科会開催を行わなかったが、前回 ( 2/22 ) の分科会での担当者が各担当分について、文献調査を実施中。
5, 6 月	6 月 12 日に果糖分科会実施: 各分科会メンバーに担当分の文献のまとめと一覧表の作成を依頼した。また果糖の総説についての担当者を割り当てた。
7, 8 月	3 および 4 月は分科会開催はしなかったが、前回 ( 2/22 ) の分科会での担当者が各担当分について、文献調査を実施中。
9, 10 月	9 月 18 日に果糖分科会実施。 Nutrition Reviews の果糖総説の内容検討、果糖批判の中心的な Am. J. Clin. Nutr の文献の検討を実施している。また昨年から実施している Pub. Med. による文献検索結果の一覧の作成を開始した。
11, 12 月	現在までの分科会において、分科会メンバーで分担してまとめた PubMed による文献 果糖批判の中心的な Am. J. Clin. Nutr の文献について、一覧にする作業を開始した。

### \* ダイエット分科会

1, 2 月	1 および 2 月は分科会開催はしなかった。前回同様、10 月分科会の宿題事項である GI と満腹感に関する文献調査を担当者が実施中。
3, 4 月	4/13 に本年度第 1 回目の分科会を開催。 Glycemic index ( GI ) と満腹感についての文献調査を実施。低 GI が満腹感を持続させるという論文に絞って内容を精査。摂取後 4 ~ 5 時間になると高 GI 食は血糖値がベースライン以下になるのに対し、低 GI 食では血糖値の低下の程度は軽いという結果が得られており、これが満腹感の持続に関与しているかもしれないという観点からの議論がなされた。
5, 6 月	5 および 6 月は分科会の開催はなし。4 月に引き続き Glycemic index ( GI ) と満腹感についての文献調査を実施中。
7, 8 月	5 および 6 月は分科会の開催はなし。4 月に引き続き Glycemic index ( GI ) と満腹感についての文献調査を実施中。
9, 10 月	9 および 10 月は分科会開催せず。7 月分科会の宿題事項である血糖値と満腹感・食欲の関係に関する文献調査を担当者が実施中。
11, 12 月	11 月 14 日第 3 回分科会を開催。GI と摂食量、満腹感の関係を調査したヒト介入試験の論文 2 報の内容紹介。今後、低 GI の方が満腹感が持続するというメカニズムに関する

	<p>論文の検索も行うこととした。着地点としては、「低 GI 食は満腹感を持続あるいは食欲を抑制させること、ならびにその想定メカニズム」に関して総説にまとめて投稿することを考えている。</p>
--	--